２６．中学校国語科「メディア読解力」育成教材研究

附属池田中学校　増田ゆか
yunfa@cc.osaka-kyoiku.ac.jp

１　実践研究の動機

（１）国語科におけるデジタルメディアの取り扱い

国語科でのＩＣＴ活用に関する記述を、新学習指導要領から拾ってみると、明示されているのは小・中・高校の９年間を通して中学校と高等学校に次のように書かれているのみである。

①中学校第２学年「Ｃ読むこと」の言語活動例
「新聞やインターネット，学校図書館等の施設などを活用して得た情報を比較すること」

②高等学校　国語総合「Ｃ読むこと」
「文字、音声、画像などのメディアによって表現された情報を、課題に応じて読み取り、取捨選択してまとめること」

③高等学校　国語表現の内容（２）オ
「話題や題材などについて調べてまとめたことや考えたことを伝えるための資料を、図表や画像なども用いて編集すること」

④高等学校　現代文Ｂの内容（２）ウ
「伝えたい情報を表現するためのメディアとしての文字、音声、画像などの特色をとらえて、目的に応じた表現の仕方を考えたり創作的な活動を行ったりすること」

⑤高等学校　「第３款　各科目にわたる指導計画の作成と内容の取り扱い」に２（３）
「音声言語や画像による教材、コンピュータや情報通信ネットワークなども適切に活用し、学習の効果を高めるようにすること。」

中学校ではじめて「インターネット」の「活用」という言葉が用いられ、高等学校で「音声言語や画像による教材、コンピュータや情報通信ネットワーク」の活用が述べられ、文字以外のメディアを文字と同様の表現手段として、その特色を取り上げるよう明示している。

しかし、国語科では「紹介」「報告」「説明」などの表現手段に「図表」「写真」などを「用いて」とあるように、小学校から表現手段としてデジタルメディアの使用を含みとして入れており、実際にはインフラさえ整っておれば、デジタルメディアを用いた授業の機会を多く持ってもよい教科だと言える。

国語科におけるデジタルメディアの使用を実際の運用で分けると大きく５つに分類できる。

１　情報収集、情報分析、選択の場面で使われるインターネット、デジタル辞典など（上記指導要領①⑤に相当）

２　想像をふくらませ表現内容を作るために使用される題材としての写真や画像、映像など（上記②）
３　自分の意見を分かりやすく伝える資料作成に用いるプレゼンソフトと出力装置としてのプロジェクタ、ＯＨＣ等の使用（上記③が近い）
４　古典や漢字、故事成語、書写などの知識理解、基礎技能育成のためのゲーム等のコンテンツ（上記⑤）
５　文字言語以外の非言語メディアを読解するための画像、音声、動画教材（上記④）

上記１～４はすでに文部科学省の委託事業[1]や学情研推奨自作ソフトウェア[2]など、公開されているものがいくつか見られるが、国語科の教材はまだまだ少ない。５に至ってはほとんど見られない。

（２）メディア読解力育成に資するデジタル教材の活用

現代私たちが目にするほとんどの情報はメディア単体で現れることはほとんどない。書籍であっても文字言語は図や表、写真と組み合わされる。映像にいたっては文字、音声、動画が組み合わさった複合体として現れる。また、個人と世界が双方向につながる情報社会では情報を発信・受信する「私」自身もひとつのメディアであるという表現主体としての自覚を持たせることが重要になってくる。

このような環境を生き抜く子ども達に複合メディアを読み解く力（以下「メディア読解力」と呼ぶ）は国語科で育むべき読解力として今後さらに重要になってくると考えられる。メディア読解力育成に画像、音声、映像すべてを同時に扱えるデジタル教材は欠かせない。ところが先述のとおり、非言語メディアを読解するための画像、音声、動画教材の開発は進んでいるとは言い難い。

そこで中学校でメディア読解力を育むためのデジタル教材開発を、従来の文字言語読解力育成に資するデジタル教材開発と共にすすめ、実践による検証を行っていこうと考えた。

２　開発デジタル教材の内容と特徴

授業におけるＩＣＴ活用を阻むのは、インフラの問題と指導者側のリテラシーの問題である。いくらよいデジタル教材であっても、情報教室設計時点で入っていないアプリケーションはセキュリティ等の問題で管理者以外簡単にインストールできない場合が多い。一般の学校で標準装備されているアプリケーションで使用可能な教材の方が使いやすいと考える。そこで、HTML形式やMicrosoft　Officeのドキュメントで使用可能なデジタル写真素材を次の3種類制作した。

[1] 文部科学省委託事業「ＩＣＴ活用による学力向上の証し」http://spa.nime.ac.jp/resume_list.php?rt=e
[2] 学情研推奨自作ソフトウェア http://www.gakujoken.or.jp/ghp/gsoft/kensaku.html

○犬の素材集　○少年素材集　○少女素材集

市販の写真素材集はさまざまな動物や人物のポーズがあるが、同一人物・動物のさまざまな角度・方向のポーズはない。写真の場合、大小、角度、方向が一つの意味をもたらす。

大小は物理的な距離を表現するが、心情的な距離も表現することができる。俯瞰と仰角の差は被写体の存在をより大きく見せたり矮小化する。方向の違いは視点人物と視聴者の立ち位置を意識させる。

このような写真メディアの読解力を育成するために、同一人物・動物のさまざまな角度や方向、感情[3]を表現した特徴的な写真素材を制作した。

同一人物にこだわるのは、写真の技術を比較する際にわかりやすのが一番の理由であるが、メディア読解以外の使用を見通してもいるからである。

犬、少年、少女は物語や詩の創作といった表現教材のモデル、文学的文章の内容理解、構成把握の理解補助教材のモデル、デジタルソフトを用いた説明や報告の語り手など、さまざまな学習場面に用いることができる。

３　実践例１

（１）単元名

[3] 感情の表現は、「喜怒哀楽」、「悩む」、「疑う」、「落ち込む」、「おどける」、「自慢する」。行動の表現として「指さす」、「休む」、「蹴る」、「ふるえる」など国語教育で使用しそうなさまざまな状況を想定して撮影したつもりである。

広告を作ろう～写真と言葉のコラボが生み出す意味～

（２）**対象学年**

中学校１年生

（３）**学習のねらい**

・写真の情報、技術を読み取り、指摘できる。

・写真の技術によって意味を操作できることを知る。

・対象視聴者に合った状況を設定し、それにあった言葉を考えられる。

・写真と言葉を効果的に組み合わせられる。

・自分の考えを分かりやすく説明できる。

（４）**指導計画（全５時間）**

第１次　写真の効果について考える……1 時間

同じような被写体を捉えた２枚の写真を比較し写っているものと、技術、効果について意見を出し合う。

第２次　広告の構成を考える……2 時間

広告対象：犬を飼っている家族

広告内容：ドッグフード（A４版ポスター）

ドッグフードのコンセプト（高級感、栄養面等）を考える。

買いたくなるような状況設定、言葉を考える。

素材集から犬、少年、少女からモデルを選び、使う写真を探す[4]。

WORD（一太郎等学校の状況に応じて）の簡単な操作を学ぶ。

第３次　広告を制作する。……1 時間

第４次　お互いの作品を鑑賞する……1 時間

・机上に展示したものを鑑賞する。指導者があらかじめ選んだ生徒に制作意図を説明させる。

・作品のよさについて意見を述べ合う。

作品例

[4] 人物以外の素材は、市販の素材集を使用。素材をある程度限定しておかないと選ぶだけで時間が取られ、本来

パワーポイントで予告編を作ろう～文学作品「デューク」を語り直す～

（２）対象学年

中学校３年生

（３）学習のねらい

・「デューク」のストーリーとプロットを理解する。

・自分の読みを説明できる。

・自分読みをもとに予告編の構想を練ることができる。

・伝えたいことを効果的に伝える構成を組み立てられる。

（４）指導計画（全７時間）

第１次　「デューク」を読んでストーリーとプロットを理解する……1 時間

第２次　予告編の構成を考える……2 時間

グループになり、登場人物の少年、少女、犬の素材を見る
８枚構成で考え、グループで絵コンテを作成する

第３次　予告編を制作する。……2 時間

あらかじめ用意された８枚のパワーポイントのスライドファイルを元に写真、文字、色、音楽の挿入方法を学ぶ。
グループで予告編を制作する。

第４次　お互いの作品を鑑賞する……2 時間

・グループごとに上映し、制作意図を説明する。

・作品のよさについて意見を述べ合う。

作品例

５　まとめ

実践例１「広告を作ろう～写真と言葉のコラボが生み出す意味～」はメディア読解力を育むためにデジタル教材を用いた実践である。写真の被写体が私たちにもたらす意味だけでなく、写真の撮影のされ方（大小、角度、方向）によってもたらされる意味が違うことも理解

の授業のねらいをはずしてしまう。背景はなしにして色を考えさせる。

させることができる。写真と言葉が組み合わされるとまた重層的に豊かな意味が生まれる。写真の大きさを自由に変え、配置を調整できるのはデジタル教材だからこそできる実践である。

相手や目的を考えて、最も効果的なキャッチコピーを考える広告制作の授業はよく行われているが、写真によって文字言語の意味すら変わってしまうこともあることは、あまり取り上げられない。批評の力を育てるためには、それぞれの構成要素と、その特徴を理解すること、複合体としての情報テクストの構成要素どうしの関係を理解すること、それを語る言葉を持たせることが大切である。音楽や動画が扱えるというのもデジタル教材の良さである。最も大切なのは写真素材の選定である。少ない時間を有効に使うために、ある程度厳選した写真素材を用意しておかねばならない。

実践例２「パワーポイントで予告編を作ろう～文学作品『デューク』を語り直す～」は文字言語読解力育成のためにデジタル教材を用いた実践である。自分が作品をどう読んだかを言葉で語るのは生徒にとって難しい。しかし、「読む」という行為を行った時点で生徒の中には自分の読みが内在化されているはずである。それを写真や音楽を用いて語り直す活動は、言葉のみで語り直すよりハードルが低い。予告編を用いて語り直す場合、8枚の構成を考えなければならない。一つの作品を自分で作り直す作業を通して、作品そのものの主題、構成や表現の工夫に気がつきやすい。今回用いたパワーポイントはスライドの順番を容易に変えることができ、音楽や文字の挿入も比較的簡単である。

自分が直感も取り入れて語りなおしたものを人に説明しようとするときに、自分の作品を再度分析することになる。それが自分の読みをメタ的に分析する力を育むことになり、さまざまな情報テクストを批評する力を養うことにも繋がっていくと考えられる。

本実践では予告編としたが、予告編に必要なスキルは作品そのものの理解とは別にあり、学習のねらいがぶれてしまうことに気づいた。写真絵本など物語を語り直す活動のほうが明確になる。

今回、開発した素材集を用いて、一般の学校に装備されているアプリケーションでできる実践を紹介した。

簡単な操作性を重視し、不要な機能を省いたフラッシュ等を用いた教材も現在製作中である。　今後も引き続き素材、簡易プログラムの制作と実践による検証を続けていきたい。